

1 基本項目	事務事業名	文化財管理事業		担当部署	課名	生涯学習・スポーツ課	
	予算事業名	文化財管理事業			係名	文化係	
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-23-1045		
	事業期間	開始年度	昭和38年	終了年度	当面継続		
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち		予会計	一般会計	
		政策名	10 明日を担うづくり		款	教育費	
		施策名	33 文化の振興		項	社会教育費	
基本事業名		33-2 地域の歴史や文化の保存・継承		目	文化財管理事業		
根拠法令				アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	市内にある文化財の管理。文化財保護審議会及び博物館協議会の開催。	
	対象	市内の文化財。	
	手段 (活動指標)	文化財保護審議会及び博物館協議会の開催及び未指定文化財の調査を実施し、文化財の保存や活用を図る。また博物館のより良い運営形態を図る。	
	意図 (成果指標)	未指定文化財の調査や、文化財の状況を随時確認することで、文化財の劣化や破壊を防ぎ、後世に残すことができる。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 文化財保護審議会、博物館協議会の開催	件	2	1	2	2	100.0%	2
	② 文化財保護審議会、博物館協議会の開催	件	2	0	2	2	100.0%	2
	③							
成果指標	① 文化財調査件数	件	1	1	1	1	100.0%	1
	② 新たな指定文化財件数	件	1	1	0	0		0
	③ 適切な管理下にある指定文化財	件	54	54	54	54	100.0%	54

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	179,000	91,592	355,000	276,243	201.6%	264,000
	② 委託料	円	388,000	220,000	390,000	247,000	12.3%	500,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	307,000	118,060	321,000	221,680	87.8%	267,000
	支出合計 (A)	円	874,000	429,652	1,066,000	744,923	73.4%	1,031,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	874,000	429,652	1,066,000	744,923	73.4%	1,031,000
	収入合計	円	874,000	429,652	1,066,000	744,923	73.4%	1,031,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	300	460	300	460	0.0%	220
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	1,260,000	1,932,000	1,260,000	1,932,000	0.0%	924,000
	総費用 (A+B)	円	2,134,000	2,361,652	2,326,000	2,676,923	13.3%	1,955,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	文化財保護審議会、博物館協議会を各1回開催。 県指定史跡である松倉城跡の草刈りを2回実施した。	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	地域の歴史や文化の保存・継承のために必要な事業である。
対象の妥当性					1 妥当である	市内の文化財を対象としているので妥当である。
有効性	有効性	B	B	目標達成度	2 目標どおり	適正な管理のもと文化財を保存できている。
				類似事業の有無	1 なし	他の部局等と同じような事務事業は存在しない。
				上位施策への貢献度	2 普通	ユネスコ登録やタテモン行事の支援は、地域の伝統文化の保存・継承に大きな役割を担う。
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	文化財を管理するために必要最低限の予算である。
				実施主体の適正化	1 適正である	文化財を管理するのは市である。
				負担割合の適正化	1 適正である	地元除草などを委託しながら、事業を行っている。
	1次評価 (課長総括)	B	B	事業の進め方・内容について改善の余地あり	2次評価	不要
	後(課題及び今後)の方針)結果	文化財保護審議会及び博物館協議会で出された意見等に基づき、文化財の管理や博物館等の運営の改善に努める必要がある。			評価結果	

1 基本項目	事務事業名	文化財保護団体育成事業		担当部署	課名	生涯学習・スポーツ課	
	予算事業名	文化財保護団体育成事業			係名	文化係	
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-23-1045		
	事業期間	開始年度	平成16年度	終了年度	当面継続		
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち		予会計	一般会計	
		政策名	10 明日を担う人づくり		款	教育費	
		施策名	33 文化の振興		項	社会教育費	
基本事業名		33-2 地域の歴史や文化の保存・継承		目	文化財保護団体育成事業		
根拠法令				アウトソーシング導入状況	導入予定なし		
				総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	指定無形民俗文化財の保存団体の実施する事業について、魚津市より補助金を交付し、文化財の保存・継承に必要な活動や魚津の歴史を研究する歴史同好会の活動について支援する。
	対象	指定無形民俗文化財保存団体。
	手段(活動指標)	各保存団体において、郷土に伝わる文化財の保存・継承が行われる。
	意図(成果指標)	保存会等の活動が活発になり、無形民俗文化財が適切に保存・継承される。また、歴史同好会会員により魚津の歴史や伝統についての調査がなされる。

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 指定無形民俗文化財保護団体の維持	件	4	4	4	4	100.0%	4
	②							
	③							
成果指標	① 保存・継承されている無形民俗文化財の数	件	4	4	4	4	100.0%	4
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円			5,000	5,000		
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円	230,000	230,000	250,000	250,000	8.7%	230,000
	⑤ その他	円	61,000	60,200	35,000	7,000	-88.4%	49,000
	支出合計(A)	円	291,000	290,200	290,000	262,000	-9.7%	279,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	291,000	290,200	290,000	262,000	-9.7%	279,000
	収入合計	円	291,000	290,200	290,000	262,000	-9.7%	279,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	60	220	60	220	0.0%	220
	③ 人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	252,000	924,000	252,000	924,000	0.0%	924,000
	総費用(A+B)	円	543,000	1,214,200	542,000	1,186,000	-2.3%	1,203,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	市指定の無形民俗文化財保持団体への事業補助。 全国山・鉾・屋台保存連合会総会へ出席。	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	地域の歴史や文化を保存・継承するために必要な事業である。
対象の妥当性					1 妥当である	地域の歴史や文化を保存・継承する団体を対象としており妥当である。
有効性	有効性	B	B	目標達成度	2 目標どおり	無形民俗文化財を継承することができている。
				類似事業の有無	1 なし	他の部局等と同じような事務事業はない。
				上位施策への貢献度	2 普通	地域の歴史や文化の保存・継承に貢献している。
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	必用最低限の予算である。
				実施主体の適正化	1 適正である	指定無形民俗文化財の保存団体に対して補助金を交付している。
				負担割合の適正化	1 適正である	保存団体の自己資金も含めて、文化財が保存・継承されている。
	1次評価(課長総括)	B	B	事業の進め方・内容について改善の余地あり	2次評価	不要
	後の方針(評価結果)	文化財保存団体も高齢化の進展により、活動の維持が難しくなっており、今後も継続して補助していく必要がある。				評価結果

1 基本項目	事務事業名	文化財保存事業		担当部署	課名	生涯学習・スポーツ課			
	予算事業名	文化財保存事業			係名	文化係			
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-23-1045				
	事業期間	開始年度	不明	終了年度	当面継続	予会計	一般会計		
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち				算科目目	款	教育費
		政策名	11 豊かな心を育む文化とスポーツの振興					項	社会教育費
		施策名	33 文化の振興					目	文化費
基本事業名		33-2 地域の歴史や文化の保存・継承				アウトソーシング導入状況		導入予定なし	
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	市内にある文化財の保存・活用のため、説明看板や標柱、標識の設置を行う。 風水害による文化財の破損の際の調査、修繕を行う。 文化財の保存のための整備、補助、調査を行う。 国指定・重要無形文化財「魚津のタテモン行事」を行うために協力している。
	対象	市内の文化財。
	手段(活動指標)	市内の文化財の保存・活用のために整備を行うと伴に、伝統的な祭りの継承に努める。
意図(成果指標)	市民の文化財の認知や保護への理解が深まり、適切に保存されるとともに、祭り等の伝統文化が継承される。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 文化財保存のための整備・補助の件数	件	4	7	5	3	60.0%	3
	②							
	③							
成果指標	① 市民意識調査満足度・郷土の歴史や伝統が継承され、自然に育まれた文化が豊かである。	%	41.0	52.9	42.0	56.2	133.8%	50.0
	② たてもん協力隊参加者数	人	250	281	320	308	96.3%	350
	③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	629,000	599,817	1,375,000	1,317,610	119.7%	2,942,000
	② 委託料	円	1,178,100	1,178,100	1,199,000	999,000	-15.2%	550,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円	378,000	366,000	1,097,000	1,097,000	199.7%	574,000
	⑤ その他	円	259,000	193,543	266,000	149,560	-22.7%	283,000
	支出合計(A)	円	2,444,100	2,337,460	3,937,000	3,563,170	52.4%	4,349,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円	588,000	579,000				1,500,000
	③ 地方債	円						
	④ その他(使用料、雑入等)	円						
	⑤ 一般財源	円	1,856,100	1,758,460	3,937,000	3,563,170	102.6%	2,849,000
	収入合計	円	2,444,100	2,337,460	3,937,000	3,563,170	52.4%	4,349,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	884	600	960	700	16.7%	700
	③ 人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	3,712,800	2,520,000	4,032,000	2,940,000	16.7%	2,940,000
総費用(A+B)	円	6,156,900	4,857,460	7,969,000	6,503,170	33.9%	7,289,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	たてもん櫓の修繕。旧沢崎家住宅屋根の修繕。たてもん協力隊を広く募集。天神山を守る会及び天神山ガーデンへの活動補助を行い、天神山城跡、魚津歴史民俗博物館、天神山花の森ガーデンで一体となり、観光客の増加や環境整備に努めた。旧魚津御塩蔵の文化財としての現状を把握するため、富山国際職業学園に委託して調査を行った。また、調査報告会を開催した。	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	地域の歴史や文化の保存・継承のためには、必要な事業である。
対象の妥当性					1 妥当である	市内の文化財を対象としており妥当である。
有効性	有効性	B	B	目標達成度	2 目標どおり	文化財を保存するために成果を得られている。
				類似事業の有無	1 なし	他の部局に同じような事務事業はない。
				上位施策への貢献度	2 普通	伝統文化が保存・継承されることで市民が、郷土の伝統や文化に愛着を持つことができる。
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	たてもんボランティアを募るなど少ないコストで事業実施を行うようにしている。
				実施主体の適正化	1 適正である	文化財の保存・継承は市の事業である。
				負担割合の適正化	1 適正である	県の補助を受けながら事業実施している。
1次評価(課長総括)	B	B	事業の進め方・内容について改善の余地あり		2次評価	不要
後(評価方針)	国・県・市指定文化財や今後、保存すべき文化遺産に対して、現状把握を行い、保存・整備・活用について、検討する必要がある。国が「魚津のタテモン行事」を含む「山・鉾・屋台行事」についてH28年度にユネスコ無形文化遺産登録を目指すことになったことから、今後のPRが求められている。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	市史編纂動物調査事業		担当部署	課名	水族博物館			
	予算事業名	市史編纂動物調査事業			係名	飼育研究係			
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-24-4100				
	事業期間	開始年度	平成25年度	終了年度	平成28年度	予会計	水族館事業特別会計		
	総合計画	目標名	基本目標4 人と文化を育むまち				算科目	款	1. 水族館費
		政策名	11 豊かな心を育む文化とスポーツの振興					項	2. 水族館費
		施策名	33 文化の振興					目	1. 水族館管理費
		基本事業名	33-2 地域の歴史や文化の保存・継承					アウトソーシング導入状況	導入予定なし
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	魚津市史自然編纂の基礎データを蓄積するため、市内の生物に関する調査を行う。	
	対象	魚津市内の生物全般	
	手段 (活動指標)	野外調査、資料（文献・書籍等）の情報収集	
	意図 (成果指標)	魚津市史自然編の発刊に必要な情報や資料を、野外調査や情報収集によって集積する。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 野外調査日数	日	20	20	50	30	60.0%	30	
	②								
	③								
	成果指標	① 調査による情報収集率	%	30	30	53	50	94.3%	100
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	150,000	112,382	150,000	99,036	-11.9%	193,000
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円						100,000
	支出合計 (A)	円	150,000	112,382	150,000	99,036	-11.9%	293,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円			150,000	99,036		293,000
	⑤ 一般財源	円	150,000	112,382				
	収入合計	円	150,000	112,382	150,000	99,036	-11.9%	293,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	300	200	300	900	350.0%	900
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	1,260,000	840,000	1,260,000	3,780,000	350.0%	3,780,000
総費用 (A+B)	円	1,410,000	952,382	1,410,000	3,879,036	307.3%	4,073,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	魚津市内の生物調査	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
	妥当性	妥当性	0	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	当館は、市で経営しているため
目的の妥当性					1 妥当である	市史編纂のための市内の生物調査であるため	
対象の妥当性					1 妥当である	生物データの蓄積につながっている	
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	屋外調査を行うことで、展示にも反映されている	
				類似事業の有無	1 なし	県内唯一の施設のため、類似施設はない	
				上位施策への貢献度	1 高い	調査を行うことで、データの蓄積だけでなく展示にも反映されている	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている	
				実施主体の適正化	1 適正である	調査を行うことで、データの蓄積につながっている	
				負担割合の適正化	1 適正である	調査を行うことで、データの蓄積だけでなく展示にも反映されている	
1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要		
後の方針 (評価結果及び今後)	市史自然詩編は、魚津市の水循環が育む自然のバイブルとなるもので、その作成とともに、活用を考えていく必要がある。水族館は、任されている分野の調査を進めるとともに、取りまとめの準備にかかる必要がある。				評価結果		